

論文要旨

本論文の目的は、現代中国の対外直接投資に関して、これまでの発展のプロセスを明らかにし、経済政策の考察と実例研究などを通じて、この問題に関する今後の動向を推測するものである。

中国は世界有数の直接投資受入国であり、1970年代末に改革・開放路線への歴史的な大転換を決定してから約35年間、外国資本の受け入れは拡大してきた。一方、中国から海外への直接投資に関しても発展途上国では最大の規模になり、21世紀に入ってから直接投資の拡大はさらに加速している。

「世界工場」と言われる中国の持続的な経済成長を支えている大きな要因の一つは輸出であり、その増大を通じて工業化が促進されてきた。こうした輸出志向型の工業発展は、国内の生産力を高め、産業構造を高度化させるとともに、その過程において雇用の拡大と所得水準の向上が達成されてきた。

しかし、経済発展に伴い、さまざまな問題が発生してきている。対外的な問題としては、中国の輸出攻勢に対する不満と輸出入を巡る貿易摩擦の拡大、エネルギーと原材料の確保、外貨準備残高の急増による国内貨幣過剰などを指摘することができる。これらの問題は、中国の経済発展に伴う輸出の急増と対外直接投資の動向と密接に関連している。

本論文は、近年急速に増大しつつある対外直接投資について考察しようとするものである。

第2章の「中国の経済発展と対外直接投資の展開」では、1979年から今まで中国の経済成長を概観した上で、中国企業の対外直接投資の展開について分析した。1978年改革開放以来の中国対外直接投資の発展過程と特徴に関する分析によって、中国の経済成長と共に、対外直接投資の変化を明らかにした。

中国の海外直接投資は主に実験準備期、発展期、第一成長期、第二成長期四つの段階に分かれて、中国政府の政策によって対外直接投資の規模と特徴が変貌しつつある。

第3章の「中国対外直接投資の実態と特徴」では中国対外直接投資の実態と特徴を究明した。特に2000年以降中国対外直接投資の大きな変貌について分析して、その背景と要因を解明した。なかでも、近年の中国政府の具体的な後押し政策を挙げて、直接投資拡大の根本的な要因について議論をした。それは国家戦略の位置付けと政府の後押し政策であ

る。

第4章の「中国企業の対外直接投資のパターンとケーススタディ」では、中国対外直接投資の事例を挙げ、事例分析を展開した。グローバル企業として急成長してきた中国の家電メーカーハイアールと中国エネルギーの大手企業中国石油天然気二社の事例に絞って、それぞれのグローバルな展開、海外進出の経緯と海外進出の要因などについて、具体的な分析を展開した。なかでも、海外進出に失敗したファーウェイの例もあった。成功例としては、主に政府のバックアップ、自然資源と経営資源への強い意欲、投資先への配慮などの理由が考へる。失敗例としては、海外進出する経験が少ない、自国の安全問題、国際的な人材が少ないなどの理由をあげた。

最後に以上の分析の結果をまとめて、中国企業の海外進出の現状と具体的な事例によって、中国の対外直接投資に関する問題点も再考し、今後の発展を展望した。